

十一月も半ばを過ぎ、いよいよ師走に近づいてまいりました。福岡新水巻病院が六月一日に開院して早いもので半年になろうとしています。地域密着型の病院として、地元の診療所、救急隊との連携もスムーズに行くようになってきました。

多くの方から、きれいな病院とお褒めを頂いております。しかし院長として一番嬉しいのは、先生が良い、職員が良いと言って頂いたときです。きれいな病院は良い設計士と建築会社があればできますが、良い病院かどうかは中身が肝心です。医療レベルが高いのは当然のこと、それを提供する職員が暖かく優しい表情で接し、愛想が良いことが大事と考えています。当院は二十四時間受付をしていますから、常に暖かく患者さんに接することができるよう職員を教育しています。夜中だからと決して昼間より診療内容、態度が落ちることが無いようにと厳しく指導をしています。

ではどうしたら良い職員ができるのか。それには職員ひとりひとりに対する全人的教育が必要と考えています。ではどうすれば全人的教育ができるのか。勉強会は当然ですが、アフター5の充実も大事なポイントと考えます。アフター5もいろいろあります。焼き鳥、焼肉も手軽ですが、いっしょにコンサートやミュージカルに行くとか、旅行に行くとか、いろいろなクラブ活動を通して職員どおしが人間性を高め合い、福岡新水巻病院に対する帰属意識が高まればと思っています。

医療人は真に己自身を見つめ、本当に患者さんのために尽くしているか、常に自問自答しながら働いて欲しいものです。さらに職員どうしはお互い良い鏡ですから、直しあい、指摘し合うのも良いと思います。毎週のように医療事故のニュースがあり、どうしてこのようなことが起こりうるのかと眼をうたがいます。明日は我が身にならぬよう、「患者さんのために何をすべきか」だけを主題に考えて運営して行きたいと思っています。

秋の行楽シーズンとなり、職員旅行も当院のほとんどの職員が参加しています。(もちろん全員がいっぺんに行くとは病院が機能しなくなりますから、何班かに分散しておりますが。)家族連れで行き、いろいろいっぺんに済ませようという職員もいれば、旅行の中で仲良くなる職員もいるようです。旅行はどこに行くかも大事ですが、誰といくかで思い出の度合いが決まるそうです。どんどん出かけて人間を高めてもらいたいものです。

第十章。

